

◆平成28年度新指定文化財◆

わぐらばし
和倉橋親柱
とみがおかはちまんぐうおおのぼり
富賀岡八幡宮大幟
2基
三井親和書

江東区教育委員会は、文化財保護審議会（会長 北原 進：立正大学名誉教授）の答申を受け、新たに2件を指定し、1件を登録しました。また、1件を解除したため、登録文化財の総数は1058件となりました。

南詰
親柱



北詰
親柱



河上一雄先生逝く

本区文化財保護審議会副会長の河上一雄先生は、入院加療中のところ、治療の甲斐なく去る1月13日にご逝去されました。75歳でした。

先生のご尽力に対し感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（次頁に関連記事）

下
田
文
化

SPORTS
& SUPPORT
KOTO City in TOKYO
スポーツと人情が熱いまち 江東区

NO.
277
2017.4.26

発行
江東区地域振興部
文化観光課文化財係
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
<http://www.city.koto.jp>

- 平成28年度
新指定・登録文化財紹介
- 河上一雄先生訃報
- 所蔵資料紹介
明治四十四年七月二十六日の
水害絵葉書
- 平成29年度芭蕉記念館特別展
「句碑にたどる江戸・江東の俳諧」
- 江戸の獵師町を探る
深川獵師町ってどんな町？2
- 旧大石家住宅の茅葺替え工事
- 新刊案内
「絵葉書で見る江東百景
深川公園－富岡八幡宮・深川不動堂－」

静かに語りかける文化財

文化財は、過ぎ去った日々、地域の人々が生活・生産・信仰などさまざま活動を通して生み出してきたものです。材質も木・石・金属などとさまざまですが、そこには地域やそこに住んだ人々の歴史が刻み込まれており、その姿を見るとき、私たちに静かに語りかけているように思えます。

このような文化財を後世に伝えるため、文化財係では、現代に受け継がれ

これから春に向い、陽気も良くなつてきますので、ぜひ近所の路地など散歩してみてはいかがですか。きっと新しい発見があると思いますよ。

新文化財については、その詳細について次頁で紹介していますので、ぜひご覧ください。

た遺産を文化財として指定・登録しています。そのため、計測や刻銘の筆写など、できるだけ詳細な調査を行い、少しでも多くの情報を読み取るよう努めています。昨年度は、新たに2件を指定、1件を登録しました。

文化財というと少し堅苦しいイメージをもつ方も多いのではないかでしょうか。でも、決してそのようなことはありません。意外と身近なもので、皆さん近くにも数十年、あるいは数百年と長い時を経過しつつも、地域に受け継がれ、残ってきたものがきっとあるはずです。

略歴

1941年 東京生まれ
1967年3月

東京教育大学大学院修士課程修了

※専攻は日本民俗学

修了後、都立高等学校に勤務

2001年3月 定年退職
2013年9月

江東区文化財保護審議会委員
2016年4月

江東区文化財保護審議会副会長

2016年4月

江東区文化財保護審議会副会長

河上先生は、都立高等学校教諭の道を歩まれ、日比谷高等学校長を最後に定年退職されました。その間、区内東砂の東高等学校へも勤務されました。

江東区文化財保護審議会の委員は3年余でしたが、昨年4月からは副会長を務められました。審議会では、専門の民俗学だけでなく、他の分野でも貴重な意見をいただきました。当区の文化財保護にご尽力いただきました。本当にありがとうございました。

指定文化財
【有形文化財（建造物）】
和倉橋親柱 2基

富岡1-17 江東区



モルタルの接合部

積み重ねられた各部材は、モルタルで接合されており、正面に「わくらばし」と記された橋名板(陽)

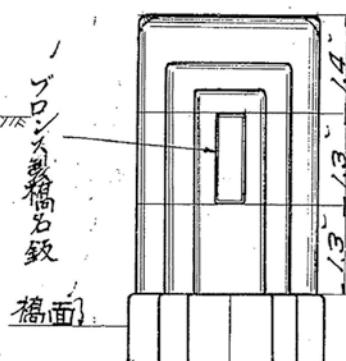
鉄・鉄製)がはめられています。

和倉橋は、関東大震災からの復興事業の一環として油堀川に架けられた震災復興橋梁の一つで昭和4年に竣工しました。親柱は、その両端にある柱をいいます。その後、昭和50年に川が埋め立てられると、橋は撤去され、親柱(2基だけが残されました。現在は、高速9号深川線の高架下の通路を挟んで南北に置かれています。

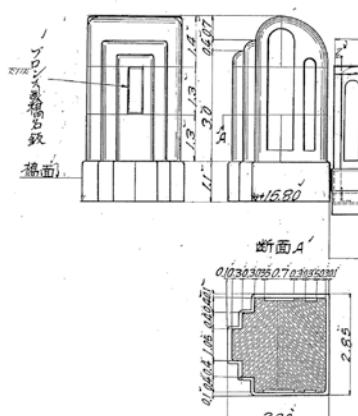
両親柱の構造は、上中下の三段からなる本体と台石で構成され(写真参考)、いずれも花崗岩でできています。



橋名板(右:北詰 左:南詰)



右図一部拡大



一般構造図並装飾図(部分)

ちなみにこの橋名板は、竣工面ではある「和倉橋」一般構造図並装飾図(江東区指定有形文化財(歴史資料)「震災復興橋梁図面 901枚」所収)にはプロンズ製と記されています。しかし現在の橋名板は鉄製で、青色の塗料



砂村氏子中

また、もう一つの特徴として、左右側面から見られる放物曲線状のデザインがあげられます。これは近代的な建

築様式、特に表現主義の影響を受けているものと考えられます。このように親柱は、震災復興橋梁の中では全体的に少ないとから、貴重な事例となります。

このように本親柱は、位置・形態に変化がみられるとはいって、失われつつある震災復興橋梁の面影を現在へ伝え、さらに表現主義のデザインを知ることができます。これが貴重な文化財です。

【有形文化財（歴史資料）】
富賀岡八幡宮大幟 三井親和書

南砂7-14-18 富賀岡八幡宮

(1779)に書家の三井親和が作製し、納されたものと考えられます。製作年代が記されていたと思われる上部右の部位が欠損していますが、残存している墨書の「八十歳 三井親和書」から親和が80才の時に書いたものとわかります。神社名の部分は、親和が得意とした篆書体で書かれています。

親和は、当時、著名だった細井広沢に師事し、広沢門下の四天王と称されました。深川油堀（現福住付近）に居住したことから「深川親和」とも称しました。

親和の書は、「型破りな幅広さ」・「ためらうことなく運ばれる筆」を持ち味として庶民に受け入れられた一方、優美さに欠け、通俗的と批判もされました。しかし、現存はしていませんが、江戸時代の浮世絵に神田祭・山王祭などの江戸祭礼で親和書の大幟が使用されていた様子が描かれており、親和の書が江戸町人に広く受け入れられたことがわかります。



石造燈籠

【有形文化財（建造物）】
石造燈籠
【登録文化財】
板倉重形奉納寛永寺旧藏

新木場2-1-1-8

東京木材市場株式会社

板倉重形が、四代将軍徳川家綱の追善のために延宝9年（1681）5月に寛永寺へ奉納した石造燈籠です。

後に、東京木材市場株式会社社長の美谷島英一氏がこの燈籠を購入しました。同社は、大正8年（1919）に設立され、本社を深川木場4丁目に置きましたが、昭和51年（1976）に新木場へ移転しました。燈籠と一緒に設置されたと考えられる説明板には、昭和53年9月の日付があります。美谷島氏は同年5月には東京原木協同組合に石造燈籠を寄贈するなど、江東区域の会社経営者の活動の一端をうかがえます。欠損箇所もみられますが、石造燈籠としての基本的な構造を有しています。



東京市立深川図書館跡

【無形文化財（工芸技術）】
石工
【指定解除】

所在地変更
保持者 新川 昇

【史跡】
靈雲院跡
清澄1-4・5・6・7付近、
同2-5・9・10・11付近

森下3-5、3-13、4-24・25
瓢池園陶磁器工場跡

【史跡】
旧万年橋跡
常盤1-2・清澄1-8

■文化財説明板の紹介

文化財係では、江東区登録史跡や江東区指定文化財の所在地に文化財説明板を設置し、ゆかりの歴史や文化などを紹介しています。平成28年度は2基の史跡説明板を新たに設置しました。

一つは「東京市立深川図書館跡」です。東京市立深川図書館は、明治42年（1909）に二番目の東京市立図書館として深川公園内に創立された図書館で、現在の江東区立深川図書館の前身にあたります。当時の深川公園内の南西に立地していたこの中にちなんで、現在の深川公園（富岡1-14-10）の南西角に説明板を設置しました。

もう一つは「採茶庵跡」です。散策の際などにご覧ください。



採茶庵跡

「採茶庵跡」です。採茶庵は、江戸時代中期の俳人杉山松風の庵室です。杉風は松尾芭蕉の門人であり、芭門十哲に数えられた人物です。奥の細道の旅に出る前、芭蕉庵を手放した芭蕉は、しばらく採荼庵で過ごし、千住大橋から奥州へと旅立ちました。説明板は、海辺橋の南側橋台地、芭蕉像と採荼庵跡標柱の隣に設置しました。

なお、外国の方にも読んでいただけるように、英語の説明文も併記しています。文化財係ではこれからも文化財説明板を設置していく予定ですので、散策の際などにご覧ください。

所蔵資料紹介

「明治四十四年七月二十六日の水害絵葉書」

今回、紹介する2つの絵葉書は、明治44年（1911）7月26日に東京を襲った暴風雨で被害を受けた江東区域の水害を記録したもので、越中島の沿岸部で船舶が陸上に打ち上げられた様子を伝えていま

—6）の「二十四号艇」という船とわかります。船体にも「第二十四」という文字がみえます。

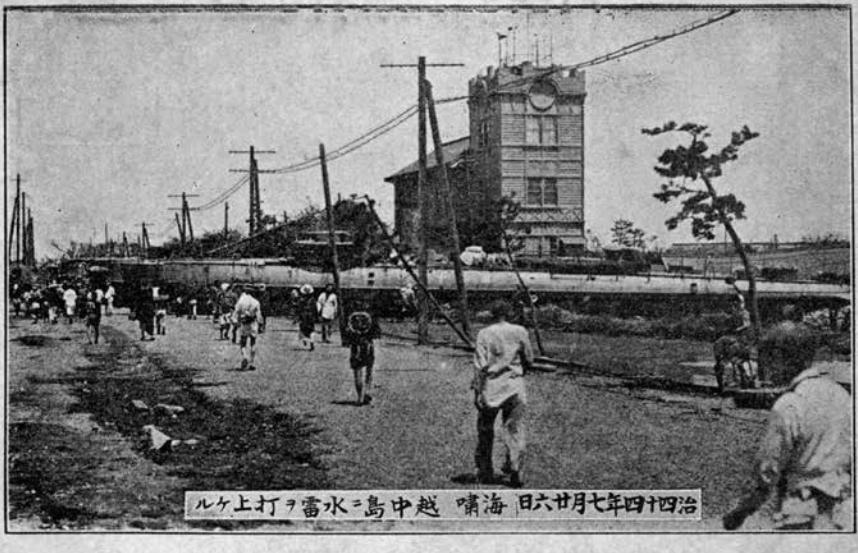
また、この情報をふまえて、改めて資

料①をみると、船体後方に

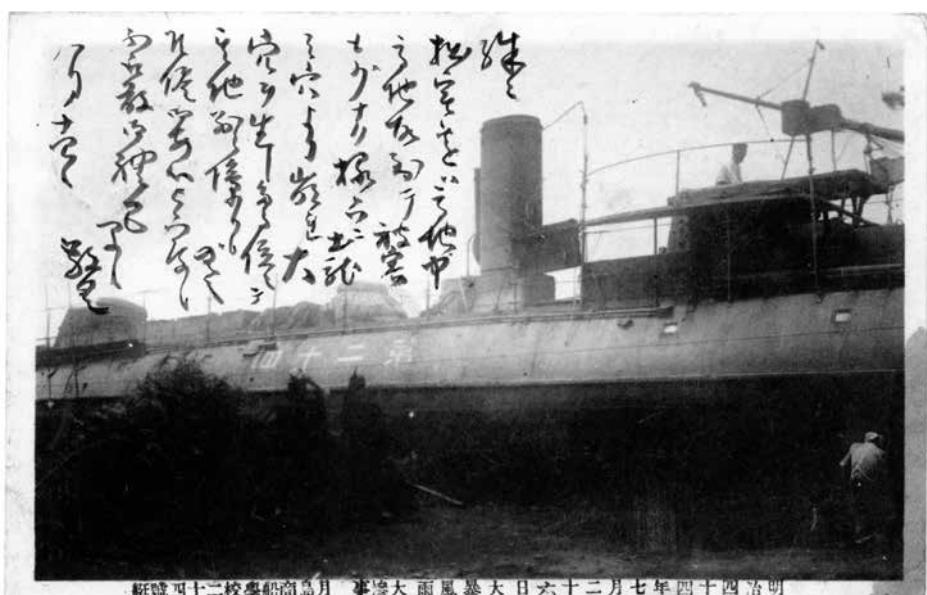
見える建物が、その形状から商船学校の気象台とわかり、この場所が商船学校の敷地であると推測できます。

実は打ち上げられたこの船は、明治28年に呉（広島県）の造船所で建造された旧日本海軍の第二一号型（ノルマン型）水雷艇の第二四号艇という軍用艦船で、明治44年4月に退役しました後、商船学校に練習船として移管されました。

しかし、商船学校は、商船の船員を養成するための官立学校です。その商船学校でなぜ軍用艦船を必要としたのか少し不思議に思われます。しかし、当時は軍備拡張という国策のもと、海軍の人員強化が求められており、船舶を運航できるという特殊な技術を持つ商船学校の生徒は身分上、海軍の軍人とされ、卒業後も海軍士官の予備員という地位を与えられました。また、学校のカリキュラムにも軍事教練が含まれていました。「二十四号艇」の具体的な運用法は不明ですが、そうした事情から授業の一環として軍用艦船を



資料①「(明)治四十四年七月廿六日 海嘯 越中島ニ水雷ヲ打上ケル」



資料②「明治四十四年七月二十六日大暴風雨大惨事 月島商船学校二十四号艇」

や所属はわかりません。
その不足した情報を補う

のが資料②の絵葉書「明治四十四年七月二十六日大暴風雨大惨事 月島商船学校二十四号艇」です。タイト

ルから商船学校（現在の東京海洋大学、越中島2-1

利用していたのかもしれません。

江東区域は土地が低く、戦前は排水設備なども十分ではなかつたため、大雨や高潮、津波などの水害が起ると大きな被害が出ました。その巨大な水の力は、時には「水雷艇」という思いがけないものまで陸の上に押し上げてしまつたのです。

◆「句碑にたどる江戸・江東の俳諧」

人が宝暦5年（1755）に桜を奉納し、この碑を建立したとされます。（写真③）

人たちは「白山下連中」と称しまし

平成29年4月27日(木)～6月11日(日)

深川を拠点とした芭蕉が亡くなつた後も、門弟の嵐雪（雪門）や其角（江戸座）では被害を免れました。現在は芭蕉記念館の庭園にある築山に移されていま

其角堂)の系譜を引く俳人たちを中心
に、江戸やその周辺で多くの俳諧結社
がつくれました。特に現在の江東区
域には、彼らが建立した句碑が各地に
残されており、江戸・東京における俳
諧の広がりを見るることができます。

今回の特別展では、現在の江東区域に残る句碑と、それに関連する作品を取り上げ、江戸時代中期から昭和初期までの俳諧結社の活動について見ていく

太白堂
(芭蕉記念館庭園)

芭蕉の二五〇回忌にあたる昭和18年（1943）に、太白堂十世の日比野とうげつ（1875～1957）が芭蕉庵ばしょうあん

跡に再建した芭

蕉堂です。この
祠は大正12年

(1923) の関 東大震災で焼失

したため石造りとされ、昭和20年の東京大空襲

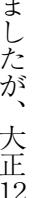
芭蕉門下の女性俳人・度会園女(わたらい)
(1664~1726)が、正徳年間
境内に36株の桜を植え、園女桜。
歌仙桜と称されました。その
後、永代寺の門前に住んでいた
園(その)といふ女性歌

上には「芭蕉翁桃青」と記された「居士」の碑があり、後に其角や嵐雪など
の墓も建てられましたが、大正12年の関東大震災と昭和20年の東京大空襲で
破損しました。（写真②）

（そのめかせん）

園女歌仙桜碑（深川公園）

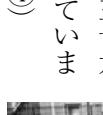
わたらい



写真②

芭蕉を祭神とする富岡八幡宮の末社で、現在は祖靈社に合祀されています。花菖蒲は寛政年間（1789～1801）に当時の俳人有志により建立されたもので、天保

建てられた石碑で
す。渋沢栄一の揮
毫による題字と、
有志の俳句三十六
首が刻されていま
す。(写真④)



おなぎづか
女木塚碑 (大島稻荷神)

が建てた句碑です。碑文は元禄5年
葛飾派の系譜を引く其日庵社中

（1692）、芭蕉が50歳の時に小名木川の船中において詠んだ句で、もとは愛宕神社（大島5丁目）にありましたが、後に第二大島小学校に移され、さらに現在地に移転しました。（写真⑦）



写真⑦

また、5月27日（土）の午後2時から、職員による展示解説（ミュージアムトーク）を行いますので、この機会

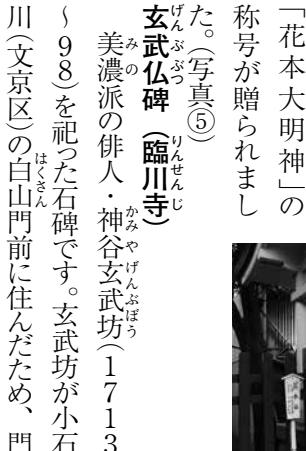
にぜひご来館ください
【芭蕉記念館 問合せ】



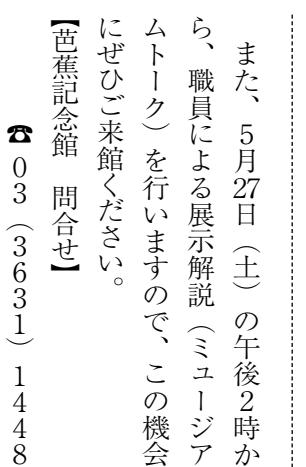
写真①



写真③



門石 13



4

江戸の獵師町を探る

深川獵師町つてどんな町? 2

前号では、獵師町の成立時期や背景などを中心に、『寛永録』（東京都公文書館所蔵）の記述からご紹介しました。深川獵師町は、隅田川沿いに北から清住・佐賀・相川・熊井・諸・富吉・黒江・大島の八ヶ町で構成され、江戸時代中期の正徳3年（1713）に江戸に編入され、町奉行支配に変わりました。江戸近郊の他の獵師町では、佃島（中央区）が成立当初から江戸の一部で、芝金杉・本芝（いずれも港区）の両獵師町もすでに寛文2年（1662）に町奉行支配になつていましたので、江戸には複数の獵師町が存在したことになります。

深川獵師町を通して、獵師町がどのような町で、一般漁村とどう違つたのか、前号の続きをお話しをよろしくお願いします。

1、獵師町と流通

まず、前号の最後で触れた深川獵師町の流通についてお話しをよろしくお願いします。

獵師町といえば、一般的には獵師が住んでいる場所と考えますが、深川獵師町は、漁業以外に流通にも関わつていました。そのはじまりは明確ではありませんが、遅くとも江戸時代の前期（17世紀中ごろ）と考えられます。寛文10年（1670）の検地（土地調査）の時には、隅田川沿いで荷物の積み下ろしをする河岸地を調査対象から除いていますので、河岸がそれ以前から存在することは間違ひありません。この付近は、江戸経済の中心であつた日本橋に、隅田川と内部河川で結ばれていたため、河川流通には好都合な場所で

あつたといえます。

また、深川獵師町には、藩や旗本の屋敷・蔵屋敷が多く存在し、河岸も備わつていました。河川・堀割に囲まれたこの地は、物資保管に適した場所であつたことから、蔵屋敷やその機能を備えた屋敷を設けたと思われます。

佐賀町にあつた仙台藩の松平（伊達）陸奥守蔵屋敷は、その代表的存在といえるでしょう。この蔵屋敷は、仙台堀と隅田川が合流する地点の北側に位置し、その名が仙台堀の由来になつたともいわれています。

このように、深川獵師町は、大名屋敷・寺社の成立・町人地の形成と、開発が進むに従つて、その姿を変えていきました。

2、獵師町の古い姿

ここでは、現在確認できるもつとも古い時代の姿を追つてみたいと思います。残念ながら開発当初のものはありませんが、延宝9年（1681）の



江戸切絵図
「本所深川絵図」
(部分)

地を武家屋敷と寺院が占め、町人の居住地は、かなり狭い範囲に限られています。これが、寛永6年（1629）の開発から230年ほど経過した深川獵師町のうち、清住町の様子です。

これに対して、その180年ほど以前、延宝9年（1681）の「深川獵師町弥兵衛町図」（江東区深川江戸資料館所蔵）には、開発から52年後の町の様子が描かれています（左頁の図参照）。その

姿を見ると、幕末とは大きく異なっています。町地は18筆に分割され、榎原式部大輔（越後国村上藩主・新潟県）屋敷が9筆、杉浦内蔵允（旗本）蔵屋敷が1筆、成瀬隼人正（尾張藩付家老）一愛知県）蔵屋敷が1筆、伊奈半十郎（幕府代官）蔵屋敷が1筆、「江戸町人」持ちが1筆、開発当初からと思われる家主が4筆、所有者不明の土地が1筆で、そのいずれにも往来を挟んで河岸地が付属していました。

このように、延宝～幕末に至るまで、そのいずれにも往来を挟んで河岸地が付属していました。

このように、深川獵師町は、大名屋敷・寺社の成立・町人地の形成と、開発が進むに従つて、その姿を変えていきました。

このように、深川獵師町は、大名屋



【深川猿師町弥兵衛町図】

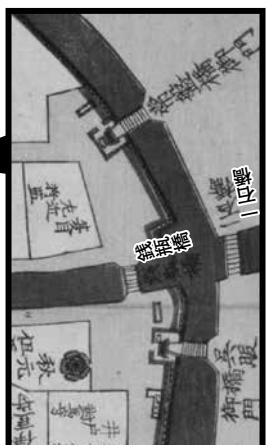
180年間に町は大きく変貌しました。そして、猿師など浜の関係者の居住地も、猿師町の南部地域（永代・福住・富岡付近）が中心になります。

3、幕府への勤め

猿師町が一般漁村と大きく異なる点は、さまざまな海上役（船を使つた労働力の提供）を負担していることです。これは、深川だけでなく、他の猿師町も同様です。將軍が御座船で出かける時、荷物を運搬したり、江戸前の海でとれた魚介類を江戸城に納めるなど、その内容は多岐にわたりました。

深川猿師町で興味深いものに、明暦3年（1657）に起こった大火に關わる負担があります。この火事は、江戸の大半を焼きつくしましたが、水路が発達した江戸では多くの橋も焼失しました。その結果、都市機能は大幅に低下し、武士が江戸城へ登城することもかなわない状況に陥ったのです。その時、深川と芝金杉（港区芝1・2付近）の両猿師町が銭瓶橋と一石橋に船を出し、登城の役人を渡しました。このことについて、「寛永録式」（東京都公文書館蔵）には、次のように記されています。

明暦三酉年江戸大火、橋々焼失の刻、
銭瓶橋・一石橋両所へ御役船附置、



(拡大)

江戸切絵図「内桜田之図」
(国立国会図書館デジタルコレクション)



4、浜十三町の形成

先に、深川地域の変貌とともに、猿師など浜の関係者の居住地は、猿師町の南部付近が中心になつたと記しましたが、この地域を地元では「浜十三町」と呼びました。猿師町の相

川町・熊井町・黒江町・大島町に、猿師町ではない周辺の中島町、蛤町などが加わり、13の町で構成されていました。もちろん、猿師町八ヶ

町は幕府崩壊まで存続しますが、北部の清住町・佐賀町の漁業との関わりは希薄になり、反面、海に近い浜十三町は深川の漁業を担います。明治になると、大島町が上・下に分かれ

浜十四町となり、深川漁業組合加入の居住範囲にもなりました。

以上、深川猿師町について、2回にわたってお話ししました。江戸にも猿師がいたこと、猿師町は幕府の御用にも貢献したこと、そしてその猿師が江戸前の海で獲った魚介類が江戸・東京の食文化の一端を支えたことを指摘し、まとめに代えたいと思います。

